

令和5年度 (対象期間：令和5年6月～令和6年5月)

環境経営レポート

人と車の長～いおつきあい

有限会社 三浦自動車

作成日：令和6年6月24日



ヒメメダカなどを繁殖し、お客様や地域行事にお分けしています。

有限会社三浦自動車の地球環境（エコ）に対する歩みとこれから

有限会社三浦自動車は平成 12 年（2000 年）から環境に関わる認証を取得し、地球環境に優しい工場を目指し、CO2 の削減（地球温暖化防止）に協力しています。

- ◇平成 12 年 12 月 三井住友海上火災保険のグリーン工場認定全国第 1 号店に認定
- ◇平成 16 年 09 月 岡山県自動車整備振興会の環境にやさしい優良工場に認定
- ◇平成 17 年 09 月 エコアクション 21 の認証取得
- ◇平成 18 年 10 月 エコドライブインストラクター 養成講座修了
- ◇平成 20 年 09 月 エコアクション 21 認証取得 岡山県エコ事業所認定
- ◇平成 28 年 岡山の就労応援団登録
- ◇平成 30 年 エコアクション 10 周年継続
- ◇令和元年 創業 50 年
- ◇令和 3 年 SDGs 宣言（ロータス岡山株式会社加盟店として）

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	エネルギーをみんなにそしてクリーンに 工場での温室効果ガス排出量の削減めざして、 二酸化炭素排出量削減に取り組みます。
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	産業と技術革新の基盤を作ろう 自動車技術の進歩は著しく常に整備スキルの 向上に取り組みます。
11 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる街づくりを 自動車の整備を通じて、安全、安心に人と物 が自由に移動できる住みやすい街づくりに協 力します。
12 つくる責任つかう責任	つくる責任つかう責任 使用済バッテリーや樹脂パーツにおいて再生品の 流通に回収と販売協力します。
13 気候変動に具体的な対策を	気候変動に具体的な対策を 化石燃料に頼らない車両の開発にシフトして いき電源としても活躍する電気自動車の普 及、ゼロミッションの実現を目指します。



有限会社三浦自動車は持続可能な開発目標 SDGs の目標達成に貢献します。今後も継続して地球環境に配慮した会社であり続けていきます。

令和 4 年 6 月 1 日改訂
有限会社 三浦自動車
代表取締役 三浦 隆

目次

1.	事業概要及び対象範囲	P. 4
2.	環境経営方針	P. 6
3.	環境経営目標と実績	P. 7
4.	主要な環境経営計画の内容	P. 8
5.	環境経営活動の取組み結果の評価、次年度の取組み内容	P. 9
6.	環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P.10
7.	代表者による全体評価と見直しの結果	P.10



1. 事業概要及び対象範囲

(1) 事業所及び代表者

有限会社 三浦自動車
代表取締役 三浦 隆

(2) 所在地

本社 岡山県倉敷市粒浦 2 4 2 - 9
板金塗装工場 岡山県倉敷市粒浦 2 4 1 - 1 0

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 三浦 隆
担当者 三浦 隆
連絡先 電話 0 8 6 - 4 2 2 - 8 8 6 8 F A X 0 8 6 - 4 2 6 - 0 6 0 6

(4) 事業規模

社員数 1 2 名
社屋床面積 5, 2 8 0 m²

(5) 事業内容

自動車整備、新車・中古車販売、レンタカー、板金塗装、カーリース、
ロードサービス、保険業務

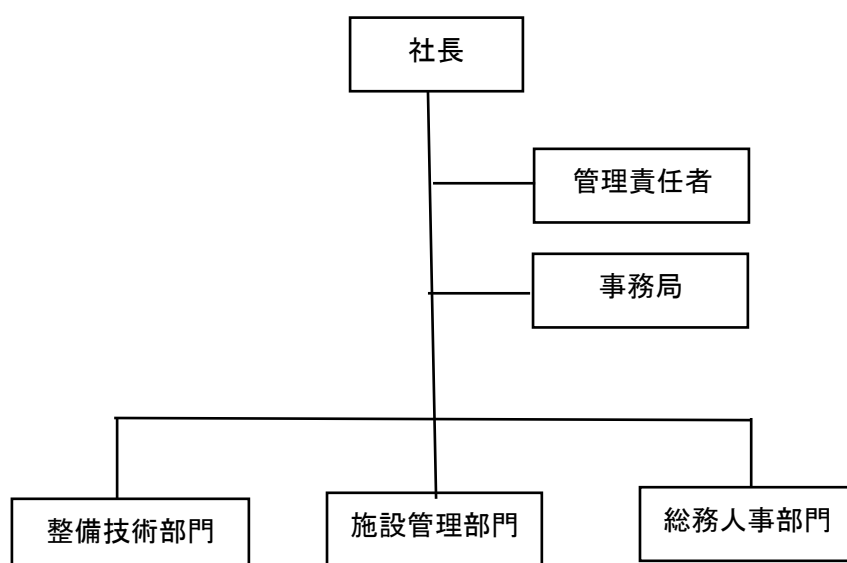
(6) 事業年度

6 月 1 日 ~ 5 月 3 1 日

(7) 対象範囲

認証・登録範囲：全活動が対象（上記(5)の事業内容に同じ）
対象組織：全組織が対象

(8) 実施体制



担当	役割
社長	環境経営方針の制定、環境経営システムの見直し、 必要な資源の準備、外部への公開可否の決定
管理責任者	環境経営システムの確立、実施及び維持、 社長に対し、環境経営システムの実施報告、 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任
事務局	管理責任者を補佐し、システムの運営改善、 E A 2 1 関連文書の作成、改廃、保管、伝達
整備技術部門	☆CO ₂ 削減のため整備、技術開発 ①エコ車検 ②エコ整備 ③窒素ガス充填など
施設管理部門	☆リサイクル品の活用及び廃棄物の削減・分別処理 ①リサイクルパーツの積極的利用 ②バッテリー・バンパー・タイヤ・オイル等リサイクルに流通 ③ゴミの分別処理の徹底 ④整理・整頓・清掃・清潔の徹底
総務人事部門	☆省資源・省エネルギーの推進 ①アイドリングストップ、エコドライブの推進 ②節水・節電・紙消費量の削減 ③グリーン購入比率UPの推進

2. 環境経営方針

・企業理念

弊社は平成12年から節水、節電、リサイクルなど環境問題に取り組みはじめグリーン工場に認定され全国1号店になりました。自動車整備、販売に携わる事業者としては先進的に環境問題に取り組み、電力、燃料、廃棄物、水使用量等の削減を社員全員が意識し取り組み、二酸化炭素排出量の削減や有害排出ガスの低減及び廃棄物の適正処理、また環境保全に向けた整備技術の向上、エコ整備、エコ車検など地球環境の保全に配慮して行動するとともに活動の有効性を高め、環境経営を継続的に改善します。

・環境経営方針

当社は、企業理念に基づき全社員をあげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組むため、以下の「環境方針」を定める。この方針は社員に周知徹底する。

(1) 省資源・省エネルギー活動の推進

事業所内の整理・整頓を行い、事業活動に於ける電力・紙・水等の資源、石油等化石燃料の使用量の低減に努めます。

事業場内の整理・整頓・清掃を徹底します。月に2回全員で全体清掃を行う。

(2) エコ整備・エコ車検等による排出ガスの低減

自動車から排出される有害排出ガスや地球温暖化の原因とされるCO₂を削減するための「排気ガス低減整備」を推進します。

(3) エコカー、次世代自動車HV・EVを中心に販売・推進をいたします。

(4) リサイクル活動による省資源化の推進

省資源活動の推進として、リサイクル部品・中古部品の使用等を積極的に推進します。

(5) 廃棄物の削減・分別処理

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をし、分別処理を推進します。

(6) 太陽光発電システムの導入による電力の削減に努めます。

(7) 環境関連法規の遵守を徹底します。

(8) 次世代自動車に対する新技術を習得し環境保全に貢献します。

(9) 化学物質の適正管理をします

(10) 地域への貢献活動

地域の行事への参加

令和4年6月1日改訂
有限会社 三浦自動車
代表取締役 三浦 隆

3. 環境経営目標と実績

当社の過去3年間の実績は以下の通りです。

売上高の変動に波があるので、単位売上高当たりの推移を見ていく。

令和5年度並びに中期目標

前年度比改善目標

年度目標		R4 年度 実績	R5 年度目標	R6 年度目標	R7 年度目標	R8 年度目標
電力	kg-CO2/売上	52.9	51.48 (対前年-1%)	対前年-1%	対前年-1%	対前年-1%
燃料	kg-CO2/売上	40.3	39.8 (対前年-1%)	対前年-1%	対前年-1%	対前年-1%
産業廃棄物	kg/売上	32.9	32.8 (対前年-1%)	対前年-1%	対前年-1%	対前年-1%
水使用量	m ³ /売上	1.87	1.85 (対前年-1%)	対前年-1%	対前年-1%	対前年-1%
エコ車検・整備	台	234	257 (対前年+10%)	対前年+10%	対前年+10%	対前年+10%
エコカー販売	台	120	132 (対前年+10%)	対前年+5%	対前年+5%	対前年+5%
化学物質	-	適正管理	適正管理	同左	同左	同左

・電力の二酸化炭素の排出係数は、2020年度中国電力調整後排出係数 0.521kg-CO2/kWh 使用

・売上：万円

R5 年度原単位実績値

		売上(万円)	実績値
電力 (kg-CO2)		21,262.01	44.00
燃料 (kg-CO2)	ガソリン	11,292.90	
	軽油	1,555.71	
	灯油	5,961.06	
	合計	18,809.67	38.93
産業廃棄物 (kg)		13,911.00	28.79
水使用量 (m ³)		1,037.30	2.15

4. 主要な環境経営計画の内容



(1) 省資源・省エネルギー活動の推進

- ①社用車の効率的な運転の推進・・・車両の引き取り・納車の合理的な運行
- ②アイドリング時間の削減、空吹かしをしない運転の推進
- ③社用車の整備による燃料効率の向上
- ④エコカー車両の使用（HV車・アイドリングストップ車）
- ⑤昼休みの照明消灯（減灯）およびパソコンは極力待機電力とする。
- ⑥省エネタイプのOA機器の導入
- ⑦室内空調は、夏は28℃±1℃、冬は20℃±1℃とする。
- ⑧自社代車の燃料使用は、使用量だけお客様に補充してもらう。
- ⑨終業後、工場内のモップ掛け、ゴミの分別収集、全体清掃は月2回第2、4月曜日朝行う。

(2) 廃棄物の排出量の削減

分別を徹底し、リサイクル比率を上げると共に、削減に努める。また、最終処分に回る分の削減に努める。

- ①廃棄する紙の裏面をメモ用紙として使用
- ②書類の電子化
- ③金属類の分別回収による資源化
- ④廃バッテリー、廃タイヤを販売会社への引き取りによる再資源化の推進
- ⑤車のバンパーはメーカーに返却

(3) 水使用量の削減

- ①トイレ排水の削減のために、貯水タンクにペットボトルを沈める。
- ②こまめに節水する。
- ③洗車用ホース先端に、ワンストップノズルを取り付けて節水する
- ④工場の清掃時の節水

(4) エコ車検・エコ整備の推進

- ①お客様に声掛けをする。
- ②定期点検実施の案内をする。
- ③タイヤ空気圧の点検等。

(5) エコ次世代自動車の販売

- ①積極的にお客様に声掛けをする。

(6) 化学物質の適正管理

- ①数量把握…GHSマークがついている中で使用数（量）の多いものの数量把握
⇒購買データで把握し、棚卸をして使用量を把握、必要以上の在庫を持たない
- ②適正に使用・保管・管理する
⇒揮発性のフタはきちんと閉め、日が当たらないところで保管。必要に応じて換気。
⇒SDSシートを電子データ管理をする（情報に目を通す）
- ③できるだけ環境配慮型製品への切り替え、代替品の検討

(6) その他の取り組み事項

社員の環境への意識向上のために定期的な研修会や会議を行う。

廃棄していた部品をリサイクルルートで一部再生品化。再生部品の積極的な活用。

化学物質は適正管理とともに代替品としてエコ製品を使用していく。

太陽光発電システムの導入による電力の削減に努めます。

5. 環境経営活動の取組結果の評価と次年度の取組内容

(1) 目標と結果

		R5 年度目標	R5 年度実績	対目標 (%)	達成状況
C02排出量 (全体)	kg-C02	—	40,483.89	—	
電力 C02	kg-C02/売上	51.48	44.0	85.5	達成
燃料 C02	kg-C02/売上	39.8	38.93	97.8	達成
産業廃棄物発生量	kg/売上	32.8	28.79	87.8	達成
水使用量	m³/売上	1.85	2.15	116.2	未達
エコ車検・エコ整備	台	257	215	83.7	未達
エコカー一次世代自動車台数	台	132	125	94.7	未達

太陽光発電

	R2 年度以前	R3 年度	R4 年度	R5 年度
kWh	未集計	57,993	54,263	40,579

(2) 評価

- ① エコカー販売は半導体不足による新車の長納期がある程度解消されたが、相次ぐメーカーの不正問題等で伸び悩んだ。またエコ車検・エコ整備共に精一杯頑張ったが、目標には届かなかった。
- ② 太陽光発電は2か所合計。
- ③ 水使用量：花の水やりやメダカの水替え作業で増えてはいるが、生き物相手なので。
- ④ 化学物質は適正管理を目標に製品洗い出しをして数量を把握はできたが、エコ製品への移行もさらに検討する。

<次年度からの取組内容>

* 今年度の計画を引き続き継続する。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

法規制等	主な要求事項	対象設備、物質	該当有無	遵守評価
廃棄物処理法	・委託契約書の締結 ・保管基準の遵守 ・マニフェストの交付 ・マニフェスト交付状況報告	産業廃棄物 (廃タイヤ、廃プラ)	該当	○
自動車リサイクル法	・使用済み自動車の引き渡し ・適切なフロン処理 ・適切なフロンの回収 ・再利用したフロン量の報告	社有車、廃車	該当	○
フロン排出抑制法	・第1種特定製品の点検 (3か月毎)及び記録の保管	業務用エアコン	該当	○
消防法	・指定数量未満の危険物の保管、 取り扱い(少量危険物)	潤滑油	該当	○
浄化槽法	・定期検査 ・保守点検・清掃、記録保管	合併浄化槽	該当	○
水質汚濁防止法	・事故時の処置と届出(貯油槽)	潤滑油	該当	○
騒音規制法	・地域別騒音基準(7.5KW以上)	空気圧縮機	非該当	○
振動規制法	・地域別振動基準(7.5KW以上)	空気圧縮機	非該当	○
大気汚染防止法	・伝熱面積10m²以上	スチーム洗車機	非該当	○

違反、訴訟等

環境関連法規への違反や訴訟はありません。

関係当局への届出もできています。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

環境目標の達成状況	C02、電力、燃料、産廃の削減は達成したが、水使用量削減、エコ整備・エコ車検、販売台数は未達。 もっと意識を向上させ来年度は目標達成に向け努力する。 次世代自動車セミナーへの参加並びに地域活動への協賛、協力をしていく。今後自社イベントの開催も検討している。
是正及び予防処置に関する情報	今後さらにエコ車検エコ整備の推進、水使用量に努力する。
法規制等に関する情報	環境関係法規の違反なし。 訴訟等なし。 苦情なし。このまま継続していく！
実施体制	問題はなし。 次世代自動車知識・技術取得の教育・育成は必要。
その他	コロナが五類に引き下げられ、自動車業界が回復出きる事を望む！

以上